

第15回 神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール 奨励賞

愛光高等学校 1年 高岡優衣・芝田千紗季・紙浦 杏訳

ぼくたちのパラダイス

アルノードは いつも ふねにのって うみを たびしているんだ。

ところがあるひ、おおきななみが アルノードのふねを のみこんじゃった。アルノードは うみをともだちだとおもっていたのに。

でも やったあ！ アルノードのはなは ながかったから、たすかったんだ！

やがて アルノードは ちいさなちいさな しまにたどりついた。

アルノードは むかしのふなのりの うたをおもいだした。

「ひとり、ひとり、ぼつんとひとり、ひろいひろいうみでひとりぼっち！」

またまた ラッキーなことに アルノードは ながいはなを トランペットにできる。「なにを うたってるの？」 さかなさんが きいた。

「SOSさ。『たすけて』ってつたえているんだ。」とアルノードは そういった。けれど だれもたすけにこなかった。

アルノードが もういっかい しまを たんけんしていると、せんちょうのぼうしが ぶかぶかとながれてきた。

アルノードが ぼうしをかぶると すぐに、すいへいせんのうえに ちっぽけなふねを みつけた。

そのちっぽけなふねは ネズミくんのボートだったみたい。

やっと たすかった！

アルノードは、そこからたすかるために ちからいっぱいがんばった。

アルノードは、うみをたびしていたから たくさんのむすびかたを していたんだ。

やがて いぬのおじいさんが ふねにのって やってきた。

アルノードは、こんどは そっとのりこんだ。

しまった！ アルノードは またやっちゃった。

ふたりの たすけを かりて、アルノードは しまを ひろげはじめた。

つぎのひのあさ、いっせきのぎよせんが ぜんそくりよくで ちかづいてきた。

かなり めちゃくちゃになっちゃった。

でも、みんなりくのうえに ぶじにあがれた。

アルノードは、こわれたふねを ぜんぶ やくだてる ほうほうを おもいついた。

おつきさまに てらされて みんなでおどった。

そして ひとばんじゅう くじらのうたを うたった。

すてきなうたは すぐに ひるまった！

すぐに みんなは アルノードのしまを めざした。

アルノードは とても かんげいしていた。「いつでも へやが あまってるよ！」

でも、あるひ そらが どんよりとして、かぜは びゅうびゅう ふいて、うみは とても おこっていて……

みんな アルノードを じっと みつめた。

そろそろ おうちにかえる？

「ちょっとまって。」 アルノードは いった。「ぼくにもっと いいかんがえがあるよ。」